

1

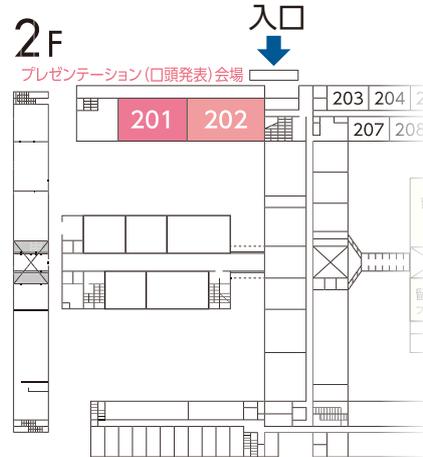
課題研究の
プレゼンテーション(口頭発表)



1F



2F



3F



【参加団体】 22グループ

【会場】 G号館 101・201・202・301

【時間】 11:30～16:00

【内容】

視覚資料を用いたプレゼンテーション (口頭発表)

発表番号	時間	101 教室	201 教室	202 教室	301 教室
1	11:30～12:00	関西学院高等部	京都学園高等学校	啓明学院中学校・高等学校	関西大学高等部
2	12:15～12:45	高槻高等学校・中学校	大阪府立千里高等学校	大阪府立三国丘高等学校	兵庫県立柏原高等学校
3	13:00～13:30	兵庫県立長田高等学校	清風南海高等学校	京都市立堀川高等学校	大阪府立豊中高等学校
4	14:00～14:30	京都市立西京高等学校	神戸市立葺合高等学校	兵庫県立兵庫高等学校	滋賀県立 守山中学・高等学校
5	14:45～15:15	大阪教育大学附属高等学校 平野校舎	和歌山信愛中学校高等学校	関西学院千里国際高等部	神戸大学附属中等教育学校
6	15:30～16:00		大阪府立北野高等学校	大阪府立泉北高等学校	
	発表言語	日本語	英語	日本語	日本語



関西学院高等部

中国の大気汚染とその解決に向けて

発表言語：日本語

101 教室
発表時間
11:30～

COP24が開催され、今中国が深刻な大気汚染を抱えていることが改めて浮き彫りになった。そこでPM2.5とはどういうものなのか、また日本や世界に与える影響を知りたくなり、本で調べてみた。中国では2000年代に入ってから工業化や自動車の増加により大気汚染がさらに加速した。また北京などの都市部では高濃度汚染が起こりやすい条件となっていることも分かった。現在では車の台数を制限したり、工場の操業を停止させるなどの対策がなされているがいずれも一時的に抑えるためのものであって根本的な解決がなされていない。どうすれば大気汚染がなくなるのか。中国だけでなく世界が関心を持って取り組むべき課題であると考えた。

高槻高等学校・中学校

発展途上国における携帯端末を利用した教育について

発表言語：日本語

101 教室
発表時間
12:15～

発展途上国では、トイレよりも携帯端末が普及していると知り、これらの端末に教育アプリケーションをインストールして、いつでもどこでも教育を受けられる仕組みがあれば、教育の面で何か貢献できるのではと思い、主にコンピュータや書籍、学校の研修旅行で訪れたパラオで情報収集をした。結果、教育効果については何ら問題はないと思われるが、必要な設備にかかる費用や電源の確保など、国家単位で考えるべき問題が多数明らかになった。今後はこれらの問題が解決されるような技術などに注目していきたい。

兵庫県立長田高等学校

思考力養成に注目したグローバル人材の育成についての考察 ～日本とフィンランドの教育の比較を通して～

発表言語：日本語

101 教室
発表時間
13:00～

グローバル化が進む今、教育においてもグローバル人材育成が早急に求められている。文部科学省の掲げるグローバル人材に必要な力の一つである思考力。日本でも大学入試の一部など見直されている部分がある反面、まだ実行されていないのが現実である。日本と同じく高い教育水準を誇りながらも思考力養成に力を入れているフィンランド。考える力を育てるための日本に合った教育とはどのようなものなのか。国の影響の及びやすい義務教育、特に専門教育に分かれる直前の段階である中学校教育に的を絞って考察した。二国の比較から見える国際社会で通用する人材の育成方法について、私たちは学生の立場だからこそ提案をしたい。

京都市立西京高等学校

メディア・アート・デザイン 一人々の環境意識持続のために

発表言語：日本語

101 教室
発表時間
14:00～

近年、問題として取り上げられる「環境」の中でも、「自然」について、私たちの生活に身近なメディア・アートの観点から考察する。「メディア・アート」は、多様な種類が存在するが、その中でもビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、文学に焦点を当てる。芸術が環境問題に対し、どのような効果をもたらすかを考える。そして、今後、環境問題を解決する方法の基盤となる、環境に対する人々の意識の向上と定着には、どのようなものが有効であるか、結論として述べる。



課題研究プレゼンテーション (口頭発表) 発表要旨

大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

感染症を通して見る大阪

発表言語：日本語

101 教室

発表時間
14:45～

私たちのグループは、9月に起こった鬼怒川の氾濫をうけ、大阪の大和川はどのような被害をもたらすのかを、感染症に焦点をあてて研究した。しかし、阪大病院へ施設見学をしたり、本校卒業生の医師の方にお話を伺ったりした結果、今の大阪にとって感染症は甚大な被害を及ぼすものではないと考えられることが判明した。それにも関わらず我々が感染症に不安を抱くのは、それに対する知識が乏しいからであると結論づけた。その対策として、今ある医療をどのように変えるかではなく、今後有用となる人材をどう育てるかが重要であると考え、いくつかの案を提示する。今後は、これらの研究結果が世界に目をむけた際も有効であるかを模索していく。

京都学園高等学校

日本の農家を支えるためには

発表言語：英語

201 教室

発表時間
11:30～

食糧自給率が低く、そのほとんどを輸入に頼っている日本において、農業に携わる若者が減少していることに注目した。調査した結果、原因として3点あると考えた。1つ目は低賃金。農業で高収入を得ている人は少なく、マイナスイメージが独り歩きしている。2つ目は重労働。決まった休暇もなく、力仕事や天候に左右される。3つ目は、農業という職種が若者から遠い存在であることだ。これらの問題を解決するために、新しい農業の形を提案する。また、若者に農業がより身近なものとなるように、農業を知る機会を作るためのイベントを提案する。日本の農業を効率よく、高収入で安定したものとし、その担い手を増やすための方法を探っていきたい。

大阪府立千里高等学校

ファーストファッションを支える下請工場の実態 ～指摘を受けて改善はどんなされたか？～

発表言語：英語

201 教室

発表時間
12:15～

労働問題に取り組むNPOが中国にある日本の衣料品メーカーの下請工場に潜入調査を行った際の報告書と、報告書が出された5ヶ月後に発行された衣料品メーカーが行うCSR活動のPR誌から情報を得、実態が公表されたのち、どのような改善がなされたかを読み取った。

報告書から、労働者達は、排水であふれているなどの過酷な環境の中で働いていること、労働時間が異常な長さであることがわかった。これらの問題はPR誌から改善されたことがうかがえる。しかし、報告書の中で取り上げられていた罰金制度についてPR誌では触れられていなかったため、罰金の問題点を指摘する。今後、他の企業で罰金制度は取り入れられているのか調べたいと思う。

清風南海高等学校

How We Have Acquired a Perspective through Virtual Trade

発表言語：英語

201 教室

発表時間
13:00～

本研究目的はヴァーチャルトレードを利用し、企業の活動とその動向がもたらす社会への影響を分析し、企業活動と我々の生活のつながりを理解する。

研究方法 (1) 3～6名ずつのグループに分かれ、テーマを討議 (2) ポートフォリオに組み込む企業などをグループごとに調査 (3) ポートフォリオと企業研究レポートの作成を行う (4) ポートフォリオ運用結果の分析を行う

私達のグループは航空産業をテーマに企業を調査し、日本は高度な航空技術を持っていることと、他の企業との関わりが深いということが分かった。今後は企業を絞って分析・研究していきたい。

神戸市立葺合高等学校

Returnees' Adaptation Issue

発表言語：英語

201 教室

発表時間
14:00～

「弟には帰国後学校にいけない時期があった。」同じ国に同じ年数滞在した私にはそのような困難は待ち受けていなかった。一言で帰国子女と言っても彼らの抱える現状や問題、身につけてきた経験や能力はそれぞれ異なる。彼らの適応は日本の課題であり、その解決は国際社会での日本の立場を向上させると考えた。彼らの適応に関する多くの問題の根本的原因は日本語力であると思われる。現在インターナショナルスクールや現地校に通う帰国子女の数は増え続け、それに伴い日本語力が不十分な子どもたちも増えると予想される。そこで私たちは彼らの日本語学習の場である補習校の改善方法を提案し、彼らのスムーズな適応への道を提案したいと思う。

和歌山信愛中学校高等学校

ストリートスマートを育成し、女性が輝く社会を作ろう

発表言語：英語

201 教室

発表時間
14:45～

女子高ならではの視点から、SGHアソシエイト研究プログラムとして「女性の社会進出に関わる諸問題の研究」をおこないました。研究方法はグループワーク、調べ学習、ポスターセッション、働く女性へのインタビューなどです。学歴によって、また男女の別によって賃金に差があることに着目し、学歴に関わらず女性が社会で活躍し、男性と同じ賃金を得るために「ストリートスマートの育成」を考えました。「ストリートスマート」とは、学歴に関わらず世の中を渡っていく能力があることを言います。どのように育成するか、またどのようにその能力をはかるかをこのプレゼンで提示します。今後はこれからの研究を通して学んだことをもとに、自身のライフプランニングにおいてその実現の障害となるものをどのように乗り越えていくかを考えています。

大阪府立北野高等学校

Pass to the Future ～Bandung transportation plan～

発表言語：英語

201 教室

発表時間
15:30～

インドネシアはこれから著しい発展が見込まれる国です。しかし急激な発展により、交通インフラの整備が追いついていません。私たちは日本が交通インフラの整備を支援することによって、インドネシアの人々がより自由に国内を移動できるようにならないかと考えました。そしてインドネシア第3の都市であるバンドンモデルを選び、この都市を移動の便利な町とするための案を作成しました。

啓明学院中学校・高等学校

黒死病は中世ヨーロッパ文化圏に新たな変革を与えたか

発表言語：日本語

202 教室

発表時間
11:30～

本研究の目的は、1347年よりヨーロッパに侵入をはたした黒死病の、中世ヨーロッパ文化への影響を証明することである。黒死病の流行によって起きた変化を「行政」「心理」「環境」の3つから考察し、黒死病がどのような面から文化に影響を与えたのかを研究した。

黒死病の蔓延により、当時の人々の間では「メメント・モリ」と呼ばれる一種の悲観世論が形成され、芸術においても悲観主義の影響がみられた。また、中世において絶大な影響力を持っていた教会は、黒死病の流行に対し有効な手立てを講じることができなかったため、信頼を失墜している。このように、黒死病はさまざまな側面において中世ヨーロッパ文化に影響を与えたといえる。



課題研究プレゼンテーション (口頭発表) 発表要旨

大阪府立三国丘高等学校

202 教室

フィリピンでJAPANTEA ～緑茶文化を広めよう～

発表言語：日本語

発表時間
12:15～

緑茶専門店を中心とした茶という新しい市場をフィリピンに開拓する。現地で「栽培・製造・消費」という過程をすべて手作業で行うため、フィリピンで問題となっている雇用を促進し、その流通に関わる貧困層の人々の生活の質や衛生水準を向上させるというBOPビジネスである。最終的な展望については、年齢や所得の多い少ないに関わらず、フィリピンに住む誰もが当たり前のように口に、親しまれるような茶を飲む文化を輸出し、ペットボトルでの販売を目指す。

京都市立堀川高等学校

202 教室

フィレンツェに学ぶ交通規制

発表言語：日本語

発表時間
13:00～

通学路の細い通りを高速で走る自動車、老朽化して駐車場へと変わった建物。住みやすいまちとはいったいどのようなものなのだろう。私たちの住む京都をもっと住みやすく、もっと環境に、そして観光客にやさしいまちにしたい。そんな考えから私たちが目をつけたのは交通規制です。しかし、一言に交通規制といってもその方法はさまざま。いったいどのような方法が私たちのまちに適しているのか、私たちの住む京都と同じように長い歴史を持ち、基盤の目状に通りが並び観光都市フィレンツェから、環境に、そして観光客にやさしいまちづくりのための交通規制を学びました。その一部始終と、私たちの提案する交通規制について発表します。

兵庫県立兵庫高等学校

202 教室

教科書に隠された科学 ～鉄の不動態はどのように形成破壊されるのか～

発表言語：日本語

発表時間
14:00～

高校化学の教科書には「鉄は濃硝酸には溶けない。これは金属表面に緻密な酸化被膜を生じ、内部が保護されるからである。このような状態を不動態という。」との記述があります。しかし、昨年の研究で、先輩方は鉄が濃硝酸と反応して不動態を形成しないことがあるという事実を突き止めました。そこで私たちは、今回の研究で教科書では触れられていない鉄の不動態の形成破壊条件を明らかにし、そのメカニズムについて考えました。グローバルな視点で論理的に結論に結びつけた過程について今回は発表しようと思います。

関西学院千里国際高等部

202 教室

なぜ、メキシコの人々はお金がなくても幸福を感じるのか： メキシコの若者の幸福観に対する意識調査

発表言語：日本語

発表時間
14:45～

資本主義が拡大・浸透する中で、幸福と物質的豊かさが漠然と結ばれた。しかし、貧しい経済状態と混乱した政治を抱えるメキシコ社会において幸福度が高いことが、様々な調査によって明らかにされている。前者と後者は相容れない。

そこで、本研究では、現地滞在経験と現地の女子へのインタビューを通して、メキシコの人々が、物質的豊かさがなくとも幸福である理由を考察した。

その結果、家族や友人などの周囲の人々の存在の意義が大きいことが見えてきた。そうした人との関係によって精神的豊かさを得ることが可能となり、幸福を感じるができるのだ。また、メキシコでは、愛情・感情表現がオープンで、周囲の存在を実感しやすいことが、幸福感を高めていると考える。

大阪府立泉北高等学校

202 教室

モノカルチャー経済と企業の役割

発表言語：日本語

発表時間
15:30～

アフリカ発展のためには、企業の進出が重要である事を明らかにし、あるべき企業進出の形を考える。また、対アフリカの直接投資を増やすため、私たちにできることを考え、明らかにする。資金援助が有効に機能していないこと、モノカルチャー経済からの脱出、の二つの観点から、アフリカの発展には企業の進出が重要であると考えた。実際にウガンダに進出されたサラヤ株式会社にインタビューを行い、あるべき企業進出の形について考え、今後そうした企業が増えるために私たちができることは何か、考えた。

関西大学高等部

301 教室

震災復興における音楽の可能性

発表言語：日本語

発表時間
11:30～

私は地震大国である日本に住み、震災により作られた音楽が歌われている事実から、音楽は被災地の復興にどのような効果をもたらすのかについて明らかにすることを目的とした。まず、音楽そのものと人に与える効果を定義づけ、阪神・淡路大震災と東日本大震災で広まった合唱曲について定義と照らし合わせて分析を行った。全ての曲で、暗い表現の後に未来を見据えるような言葉が使われていた。このように震災後に作られる音楽は、これから復興を目指す被災者の言葉を代弁してくれることが多く、精神的負担を和らげる効果があることがわかった。今後は震災を経験した被害者がどのような心情であったか、また当時と現在で違いはあるのかを調査していく。

兵庫県立柏原高等学校

301 教室

丹波からTAMBAへ ～限界集落からの脱却と、グローバルな展開の可能性～

発表言語：日本語

発表時間
12:15～

45年後には人口が半減すると言われる丹波市。市は、3万5千人になる人口を5万人で維持したいと言うが、それは可能なのか？ 私たちは、地域医療、地域の財産である農業、丹波篠山層群、生物多様性、防災・減災・森林の再生など6つの小グループに分かれて課題研究を行ってきた。日本各地で、また、世界各国で問題となっている人口・環境・エネルギー・住宅等の問題について考えるヒントを、地元の課題解決から考えていきたい。

大阪府立豊中高等学校

301 教室

高校生のフェアトレード

発表言語：日本語

発表時間
13:00～

高校生がフェアトレードを行うことで、まわりにどんな影響を及ぼすことができるのか考えてみたい。

現地（インドネシア）のフェアトレード団体に直接出向き商品をそれに見合う価格で直接仕入れ、校内で販売。販売後に生徒を対象にアンケートを取りフェアトレードの認知度の変化を調べた。仕入れに必要なお金はクラウドファンディングで募ることを試みた。

インドネシアフィールドワークは1ヶ月でありまだフェアトレードの実行は行っていない。アンケートでは認知度は1割程度にとどまっている。

予想する結論は販売実施後の認知度はかなり上昇するであろうということである。

今後はフェアトレードがインドネシアの社会問題に対してどのような効果をもたらしているかを調べたい。



滋賀県立守山中学・高等学校

公共交通機関の経済的障壁の解消と、Food for all people ～持続可能な食を目指して～

発表言語：日本語

301 教室
発表時間
14:00～

現在、全国に数多くあるバスや鉄道などの地域交通は、存続か撤廃か。そのような岐路にたたされているものが、たくさんあります。しかし地域の人々の生活や、環境面などを考える上で、交通、特に公共交通機関は無くしてはならない存在です。この、公共交通機関を、より持続可能なものにするため、私は「クラウドファンディング」を用いた、新たな導入、運営システムを提案いたします。

このシステムによって全国の地域交通がより持続可能なものとして次世代に受け継がれていくことを願っています。また、以前から興味を持っていた「食」に関する研究も進めました。深刻な食糧廃棄量、低迷している食糧自給に対して私たちは何ができるか。又、どのような手段があるのかなどを調べ、今回は提言という形でまとめました。主な内容としては、フードバンクの設営、ドギーバッグの利用推進、循環型農業のサポートです。このプレゼンに向けて、スーパー「平和堂」にも協力して頂き、「食糧廃棄」についてたくさんの情報を頂きました。今回のプレゼン製作にあたり、様々な知識、経験が身についたと思うので今後も「食」の可能性について探究したいと思います。

神戸大学附属中等教育学校

カンボジアにおける水問題による下痢患者を減らすための提案 －簡易浄水器を衛生教育プロジェクトを用いて－

発表言語：日本語

301 教室
発表時間
14:45～

私は多くの命を救いたいと考え、途上国の死因として最も多く挙げられる下痢疾患に焦点を当て、このプロジェクトを立ち上げた。文献調査と簡易浄水器の作製、雨の浄水を行い、人が利用できる水の割合や原因を分析し、pH基準値を満たす事が出来た。プロジェクトは、ボランティアを募り、農村部に小さな教育の場を設け、周りの大人に伝えられる未来を担う子供や、育児や家事を担う女性達に、簡易浄水器の工作や衛生教育を推進する事である。これは下痢患者を減らし、また教育により国の経済状況を向上させ、先進国への負担を減らす事もできると期待する。研究発表会を通して多くの方から意見を貰い、実現可能でより有効的なものにしたと考えている。